

別紙

	意見の内容（要旨）	町の考え方	対応方針
①	<p>1. 小中学校の統合に反対。</p> <p>2. 小学校では基礎的な知識の取得が重要で、小人数学習による指導が必要です。中学校では集団の中での役割を学ぶために一定規模の人数が必要です。特に中学校ではサッカーや野球など同一の学年で男女別に実施するには1学年40人以上の人数が必要となります。将来の生徒数の減少により、1学年40人程度になる見通しでは小中一貫校に統合しても十分ではない。小中一貫校ではなく秩父地域の中学校の再編成に向かうべきで、その方が中学生の教育環境の向上につながる。</p>	<p>町では、児童生徒数の減少が進む中、教育環境を維持・向上させるため、小中一貫教育の導入及び、学校施設の再整備について検討を進めています。</p> <p>小学校と中学校が協働し9年間をとおして一貫した学びを実現することで、児童生徒の学習面、生活面の支援を充実させることを目的としております。</p> <p>秩父地域の広域的な学校再編は、自治体の枠組みや通学条件、保護者負担など多くの要素を慎重に検討する必要があります。</p> <p>町としてはまずは町内の教育環境を維持するために最適な方法として、小中一貫校の整備を進めている段階です。</p>	<p>現時点では、広域的な学校再編は考えておりませんが、将来的に検討を行う必要があれば考えてまいりたいと思います。</p>
②	<p>1. 現在の小学校、中学校の施設は老朽化が進んでいる。</p> <p>2. 修理費や維持費が経過と共に増加してる。</p> <p>3. 新校舎を現在の中学校校庭の南側に建てる方法は、現在の校舎施設を移転する時まで活用できるので無駄な経費が抑えられる。</p> <p>4. 中学校敷地南側に新校舎が建つと北側が校庭となるため、夏期の運動時に日陰で涼を取れ、冬期は日当たりの良い場所で活動ができる。</p> <p>5. 冬期に校庭の土埃が周辺の住宅へ与える悪影響も軽減できる。</p> <p>6. 「学舎は大事な環境」です</p> <p>7. 多額の費用がかかり、先送りしても安くはならず前進もしない。</p>	<p>現在の小学校・中学校・給食センターの老朽化や維持管理費の増大については、町としても重要な課題と認識しており、長期的な視点で計画的な更新が必要であると考えています。</p> <p>中学校の敷地南側に新しく建設することで既存建物を利用しながら工事が可能となり、工事期間中に仮設校舎を設ける必要がなく財政的にも負担が軽くなると認識しています。</p> <p>建設費の高騰が続く状況も踏まえ、事業の実施時期や規模について比較し慎重に検討を行っております。</p> <p>過疎債は重要な財源の一つであり、利用可能期間や地域の財政状況を踏まえて、適切に活用していくことが必要であると認識しています。</p> <p>地域の木材利用や柔らかかみのある空間づくり</p>	<p>今後、設計段階において、ご指摘の点を踏まえ検討してまいります。</p>

	<p>8. 現在は令和12年度まで過疎債が利用できるが、今後、基準の変更で過疎債が利用できなくなる可能性がある。</p> <p>9. 建設費の高騰化は今後も更に進む。</p> <p>10. 木材利用制度などを活用し地域の木材を取入れた柔らかみのある建物の設計を検討。</p> <p>11. 「建設する時は今である」短期間で集中して論議し、審議し内容を吟味の上、無駄のないコンパクトな設計を行うべき。</p> <p>12. 日高市の武蔵台義務教育学校は印象深く、先進事例として長所と短所など課題もあり設計に生すべきである。</p>	<p>についてのご意見は、学校建設における重要な視点と受け止めており、木材の利用に伴う室内環境の質を高める工夫など検討を行っております。</p>	
<p>③</p>	<p>1. 校舎の必要面積は記載されているが、グラウンドの必要面積に関する説明がない。小学生と中学生が同じグラウンドを利用する際に、体育授業や学校活動の運営に支障がないのか、どのような考え方で検討されているのかを示すべき。</p> <p>2. 現在の野球場やテニスコートなど既存のグラウンド設備を今後どう扱うのか、学校活動や地域利用に関わるため、方針を示す必要がある。</p> <p>3. 小学生と中学生ではサッカーゴール、バスケットゴールなど運動設備の規格も異なるため、発達段階に応じた設備配置や利用方法の考え方も示されると良い。</p> <p>4. 令和10年度を目途に学校部活動を廃止し地域へ移行していく方針について承知しているが、学校施設の利用や活動場所の確保について関係団体や地域と協働の状況など示されると、今後の学校施設のあり方について理解が深まるのではないかと思います。</p>	<p>敷地条件により、グラウンドに関しては、学校活動など教育的観点と地域利用の観点の双方で考えて、現状のまま、全てを維持できない可能性もありますが、代替手段や利活用の方向性を含めて検討を行っております。</p>	<p>今後、設計段階において適切な施設規模、既存施設の扱い、小中で兼用可能な設備の選定や移動式設備の活用、専用スペースの確保など、具体的方法について整理していきます。</p>

	5. 今後の検討で、施設規模や既存設備の扱いを整理し、保護者や地域住民に対し丁寧に説明することが望まれる。		
--	-------------------------------------------------------	--	--